

**GUNBOH****群****萌**

第221号 2025年4月25日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルーシビル402号室

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 瓜生 泰則

編集者 化学総連事務局

info@kagaku-s.com

第3回 安全アンケート結果報告

はじめに

ものづくり産業は現場の安全・安心・安定操業が、組合員の生活基盤の確保と経営基盤の維持・向上の礎であり、重大事故や労働災害に繋がりがねない事象の芽を摘む取り組みを継続的に推進していかなければなりません。

化学総連では重大事故や労働災害に繋がりがねない不安全事象を低減するための個人・職場に有効な取り組みや、ヒヤリハット・不安全行動の変化を検証することを目的として、2014年度と2019年度に安全アンケートを実施しました(群萌第183号、198号参照)。

2024年度も化学産業で働く方々と職場の安全に関する意識や行動、取り組みの現状と過去からの変化を把握し、より有効で効果的な安全活動を考えていく一助とするために、化学総連加盟単組ならびに関連企業労組の計23単組の協力の下、2023年10月から2024年1月末にかけて第3回安全アンケートを実施いたしました。マークシート方式とWeb回答方式を併用し、22単組・計36,348名の方からご回答いただきました。この場をお借りし感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

回答者の基礎データ

アンケート回答状況や有効回答者属性は下記の通りとなります。

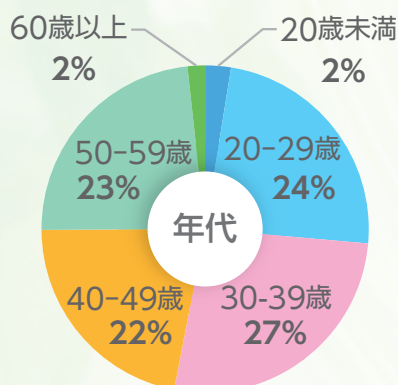
●対象人数など

対象人数(名)	回答者数(名)	回答率(%)	有効回答率(%)※
43,749	36,348	83.1	77.1

※属性質問に全問回答し、設問回答率8割以上の方の回答を有効回答としました。

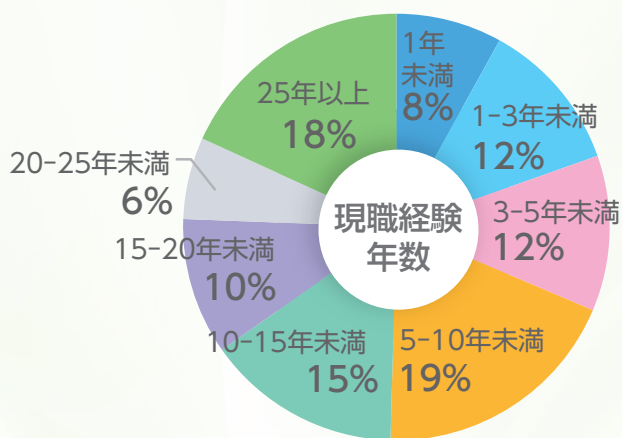
年代

年代(名)	
20歳未満	858
20-29歳	8,054
30-39歳	8,985
40-49歳	7,383
50-59歳	7,882
60歳以上	583



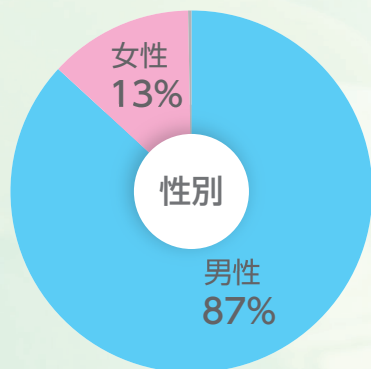
現職経験年数

現職経験年数（名）	
1年未満	2,712
1-3年未満	3,897
3-5年未満	3,978
5-10年未満	6,436
10-15年未満	4,990
15-20年未満	3,498
20-25年未満	2,095
25年以上	6,139



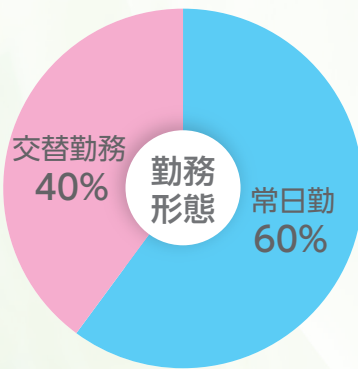
性別

性別（名）	
男性	29,300
女性	4,345
その他	100



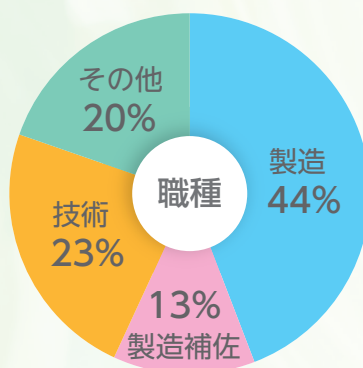
勤務形態

勤務形態（名）	
常日勤	20,284
交替勤務	13,461



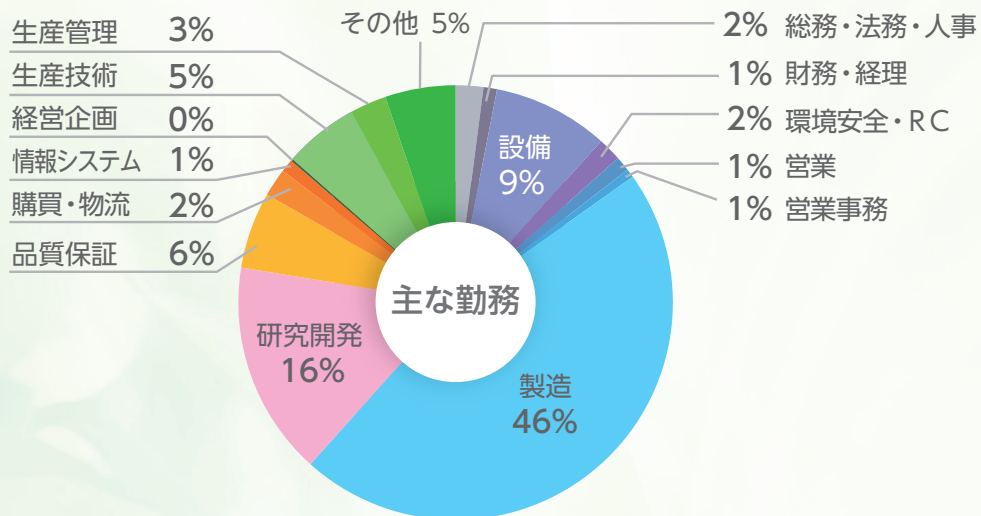
職種

職種（名）	
製造	14,900
製造補佐	4,297
技術	7,907
その他	6,641



主な勤務

主な職務（名）					
総務・法務・人事	694	営業事務	217	情報システム	321
財務・経理	338	製造	15,681	経営企画	59
設備	2,910	研究開発	5,373	生産技術	1,870
環境安全・RC	593	品質保証	1,925	生産管理	919
営業	369	購買・物流	705	その他	1,769



安全アンケート設問

安全アンケートの設問は表1の通りです。回答は6段階評価とし、点数が高いほど肯定的な回答となります。

表1 第3回安全アンケートの設問

No.	全24問（回答選択肢6つ）
1	あなたは現場での作業を通じて、重大事故や労働災害に繋がりがねない不安全な事象をどの程度感じていますか。
2	あなたは作業をする際に定められたマニュアル（作業手順書・SOPなど）やルール（保護具着用、通行区分、手すりの使用など）を遵守していますか。
3	あなたは定められたマニュアルやルールを守らない人がいた場合に、注意・指摘をしていますか。
4	あなたは今の担当業務についてのトラブルや不具合に、的確に対応する自信がありますか。
5	あなたは作業の安全性よりも、生産性を優先して作業をすることがあります。
6	あなたは職場で危険や不安を感じた時に、その改善に向け行動（改善提案など）をしていますか。
7	あなたは上司・同僚・部下を問わず、職場の中にいて自由で有意義な意思疎通（コミュニケーション）を実現できていますか。
8	あなたの職場では、作業を通じて、重大事故や労働災害に繋がりがねない不安全な事象をどの程度見かけますか。
9	あなたの職場では、実際の作業についての危険予知や、作業を想定した危険予知訓練などが実施されていますか。
10	あなたの職場では、技術の伝承が実現していますか。
11	あなたの職場では、意義のある充実した環境・品質・安全活動や小集団活動などが実施されていますか。
12	あなたの職場の設備には、適切な安全装置が設置されていますか。
13	あなたの職場では、作業の安全性よりも、生産性を優先して作業をすることがあります。
14	あなたの職場では、作業手順の見直しが行われていますか。
15	あなたの職場では整理・整頓・清掃などが実践されていますか。
16	あなたの職場では、社内のルールや法令が遵守されていますか。
17	あなたの職場では、提出された改善やヒヤリに対する対策が図られていますか。
18	あなたの職場では、他職場で発生した災害についての情報が共有されていますか。
19	あなたの職場は、事業所幹部や安全衛生委員会、または他職場の職員など、自職場以外の第3者にパトロールされる頻度がどの程度と感じていますか。
20	あなたの職場には、事業所安全衛生委員会の活動が伝わっていますか。
21	あなたの職場では、安全に関する活動・提案・改善に対し、上司からのフォローはありますか。
22	あなたの上司は、職場の安全確保に対して積極的ですか。
23	あなたは、職場での安全に関する教育内容に満足していますか。
24	あなたは、職場での安全教育に費やす時間の長さをどう感じますか。

結果と考察

図1にアンケート結果、表2に各設問間の相関関係を示します。

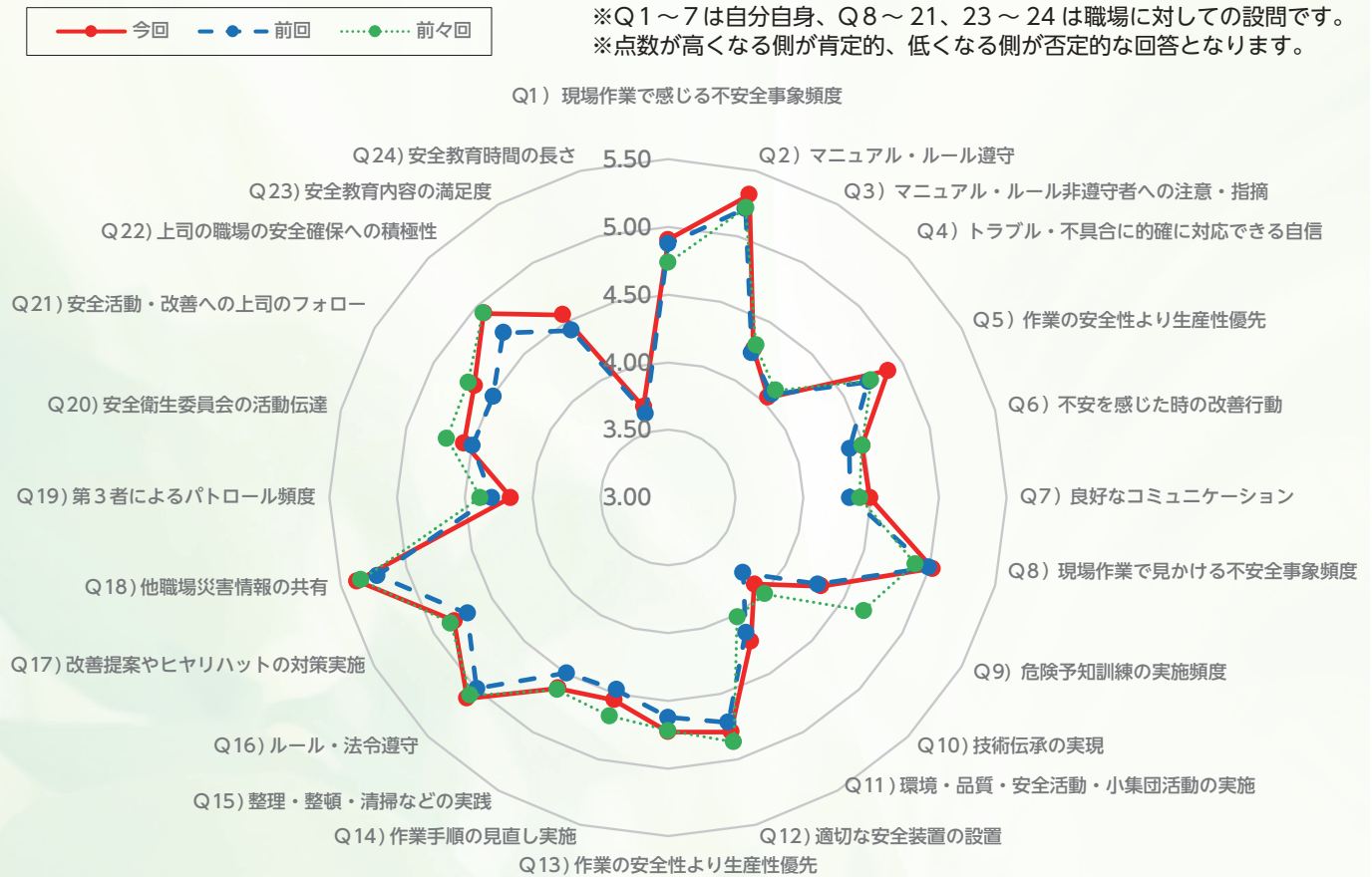


図1 第1～3回安全アンケートの比較(平均値)

表2 第3回安全アンケートの各設問間の相関関係

※濃青：強い相関(0.7以上)、青：相関あり(0.4以上0.7未満)

	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20	Q21	Q22	Q23	Q24	0.4以上の個数
Q1		0.20	0.07	0.11	0.21	0.14	0.17	0.74	-0.06	0.15	0.15	0.20	0.28	0.13	0.21	0.27	0.21	0.14	-0.07	0.14	0.15	0.17	0.23	0.12	1
Q2	0.20		0.33	0.19	0.36	0.31	0.25	0.22	0.11	0.26	0.28	0.29	0.32	0.28	0.30	0.40	0.32	0.28	0.08	0.26	0.29	0.30	0.30	0.15	1
Q3	0.07	0.33		0.41	0.23	0.44	0.28	0.07	0.15	0.18	0.20	0.16	0.18	0.22	0.15	0.21	0.20	0.15	0.10	0.22	0.19	0.18	0.13	0.09	2
Q4	0.11	0.19	0.41		0.17	0.37	0.26	0.09	0.06	0.10	0.10	0.12	0.14	0.12	0.09	0.13	0.11	0.09	0.03	0.17	0.09	0.08	0.09	0.05	1
Q5	0.21	0.36	0.23	0.17		0.34	0.27	0.23	0.05	0.22	0.25	0.26	0.66	0.24	0.26	0.38	0.31	0.24	0.03	0.26	0.29	0.33	0.30	0.11	1
Q6	0.14	0.31	0.44	0.37	0.34		0.38	0.15	0.14	0.24	0.30	0.24	0.31	0.29	0.23	0.28	0.32	0.22	0.10	0.28	0.29	0.28	0.24	0.15	1
Q7	0.17	0.25	0.28	0.26	0.27	0.38		0.19	0.12	0.38	0.37	0.26	0.31	0.29	0.29	0.35	0.34	0.27	0.09	0.26	0.41	0.39	0.36	0.19	1
Q8	0.74	0.22	0.07	0.09	0.23	0.15	0.19		-0.07	0.18	0.18	0.22	0.33	0.16	0.25	0.33	0.24	0.17	-0.07	0.17	0.20	0.21	0.28	0.14	1
Q9	-0.06	0.11	0.15	0.06	0.05	0.14	0.12	-0.07		0.20	0.25	0.20	0.06	0.22	0.11	0.11	0.19	0.18	0.28	0.20	0.21	0.20	0.16	0.22	0
Q10	0.15	0.26	0.18	0.10	0.22	0.24	0.38	0.18	0.20		0.55	0.35	0.30	0.43	0.39	0.36	0.41	0.28	0.14	0.29	0.43	0.40	0.44	0.28	5
Q11	0.15	0.28	0.20	0.10	0.25	0.30	0.37	0.18	0.25	0.55		0.42	0.35	0.45	0.42	0.40	0.48	0.35	0.18	0.39	0.49	0.46	0.49	0.33	9
Q12	0.20	0.29	0.16	0.12	0.26	0.24	0.26	0.22	0.20	0.35	0.42		0.37	0.36	0.35	0.40	0.44	0.34	0.16	0.32	0.38	0.41	0.40	0.26	5
Q13	0.28	0.32	0.18	0.14	0.66	0.31	0.31	0.33	0.06	0.30	0.35	0.37		0.31	0.36	0.51	0.42	0.32	0.05	0.34	0.40	0.45	0.44	0.20	6
Q14	0.13	0.28	0.22	0.12	0.24	0.29	0.29	0.16	0.22	0.43	0.45	0.36	0.31		0.42	0.38	0.47	0.33	0.16	0.33	0.43	0.41	0.40	0.30	7
Q15	0.21	0.30	0.15	0.09	0.26	0.23	0.29	0.25	0.11	0.39	0.42	0.35	0.36	0.42		0.51	0.46	0.31	0.10	0.32	0.39	0.40	0.44	0.27	5
Q16	0.27	0.40	0.21	0.13	0.38	0.28	0.35	0.33	0.11	0.36	0.40	0.40	0.51	0.38	0.51		0.51	0.41	0.09	0.37	0.45	0.48	0.50	0.26	10
Q17	0.21	0.32	0.20	0.11	0.31	0.32	0.34	0.24	0.19	0.41	0.48	0.44	0.42	0.47	0.46	0.51		0.45	0.18	0.41	0.56	0.53	0.51	0.32	12
Q18	0.14	0.28	0.15	0.09	0.24	0.22	0.27	0.17	0.18	0.28	0.35	0.34	0.32	0.33	0.31	0.41	0.45		0.17	0.41	0.44	0.45	0.42	0.25	6
Q19	-0.07	0.08	0.10	0.03	0.03	0.10	0.09	-0.07	0.28	0.14	0.18	0.16	0.05	0.16	0.10	0.09	0.18	0.17		0.25	0.20	0.17	0.14	0.19	0
Q20	0.14	0.26	0.22	0.17	0.26	0.28	0.26	0.17	0.20	0.29	0.39	0.32	0.34	0.33	0.32	0.37	0.41	0.41	0.25		0.50	0.43	0.43	0.29	5
Q21	0.15	0.29	0.19	0.09	0.29	0.29	0.41	0.20	0.21	0.43	0.49	0.38	0.40	0.43	0.39	0.45	0.56	0.44	0.20	0.50		0.74	0.59	0.35	11
Q22	0.17	0.30	0.18	0.08	0.38	0.39	0.21	0.20	0.40	0.46	0.41	0.45	0.41	0.40	0.48	0.53	0.45	0.17	0.43	0.74	0.60		0.60	0.34	10
Q23	0.23	0.30	0.13	0.09	0.30	0.24	0.36	0.28	0.16	0.44	0.49	0.40	0.44	0.40	0.44	0.50	0.51	0.42	0.14	0.43	0.59	0.60		0.48	13
Q24	0.12	0.15	0.09	0.05	0.11	0.15	0.19	0.14	0.22	0.28	0.33	0.26	0.20	0.30	0.27	0.26	0.32	0.25	0.19	0.29	0.35	0.34	0.48		1

- 全体的に前回よりも改善傾向であり、前々回と同程度の結果となりました。
- 現場作業で不安全事象を感じる人や職場で不安全事象を見かける頻度は、継続的に改善しています(Q1、8)。一方、高い頻度で不安全事象を感じている人や職場が一定数存在しているため、各職場にて不安全と感じる事象をヒアリングし不安全箇所を抽出することで、さらなる改善に繋がる可能性があります。
- 環境・品質・安全活動や小集団活動などの実施は、継続的に上昇しています(Q11)。これらの活動は、技術伝承(Q10)、安全装置の設置(Q12)、作業手順見直し(Q14)、3S実践(Q15)、ルール・法令遵守(Q16)、改善提案・ヒヤリ対策(Q17)、上司のフォロー(Q21)や安全確保への積極性(Q22)、安全教育(Q23)と相関があり、積極的に推進することで、より安全な職場の実現に繋がります。
- 自職場以外の第3者にパトロールされる頻度が、初回調査から連続して低下している唯一の設問となります(Q19)。コロナ禍による感染防止対策として第3者の職場への立ち入り制限などを行ったことにより更に低下したものと考えられます。第3者からの客観的な視点や様々な角度でのチェック・提言は自職場の安全性を高めることに繋がります。感染症防止対策を図りながらも第3者がパトロールする機会を積極的に再構築する必要があります。
- 法令・マニュアル・ルールを遵守しない層が一定数存在する実態があります(Q2、16)。不安全行動を見かけた時に相互に指摘・指導・教育がし合える心理的安全性の高い職場風土をつくる必要があります。また職場でのルール・法令遵守(Q16)は、自身のマニュアル・ルール遵守行動(Q2)、職場での環境・品質・安全・小集団活動の実施(Q11)、適切な安全装置の設置(Q12)、作業の安全性より生産性優先(Q13)、3Sの実践(Q15)、改善提案・ヒヤリ対策(Q17)、他職場の災害事例共有(Q18)、上司のフォローや上司の安全確保への積極性(Q21、22)、安全教育(Q23)の10項目と相関があります。
- 担当業務のトラブル・不具合への的確な対応については、年代が上がるとともに向上する傾向があります(Q4)。一方、経験の浅い層については現場での原理原則などの知識蓄積と実対応経験に加え、非定常対応の仮想経験などの施策が必要です。
- 技術の伝承については、前々回に至らないものの、前回からは改善しています(Q10)。職場の環境・品質・安全・小集団活動(Q11)、作業手順の見直し(Q14)、改善提案・ヒヤリ対策(Q17)、上司のフォロー(Q21)や安全教育(Q23)と相関が見られます。
- 職場で危険や不安を感じた時の改善行動(Q6)は、マニュアル・ルール非遵守者への注意・指摘(Q3)と相関があります。一方、マニュアル・ルール非遵守者への注意・指摘ができる(Q3)は、トラブル・不具合への的確な対応(Q4)と改善行動(Q6)と相関があります。教育を通じた知識や改善スキル、トラブル・不具合対応経験の蓄積により、諸対応を磨くことが相互に切磋琢磨し指摘し合える職場環境に繋がります。
- 職場での自由で有意義な意思疎通(Q7)は、安全に関する活動・提案・改善への上司からのフォロー(Q21)と相関があります。
- 安全に関する活動・提案・改善への上司からのフォロー(Q21)、上司の職場の安全確保への積極性(Q22)は相互に強い相関があるとともに、職場での環境・品質・安全・小集団活動の実施(Q11)、作業の安全性より生産性優先(Q13)、作業手順見直し(Q14)、ルール・法令遵守(Q16)、改善・ヒヤリ対策(Q17)、職場での他職場災害事例共有(Q18)、安全衛生委員会の活動伝達(Q20)、安全教育の満足度(Q23)と相関があります。加えて、上司からのフォロー(Q21)は、職場での自由で有意義な意思疎通(Q7)や技術伝承(Q10)とも相関があります。他、上司の職場の安全確保への積極性(Q22)は、適切な安全装置の設置(Q12)とも相関があります。上司のフォローや上司の安全確保への積極性は、職場の安全化に大いに影響を及ぼします。
- 教育訓練の内容・時間については、個々のスキルや経験値によって必要な内容・時間は異なります。受講者層に応じた教育訓練とすることで、層別に必要な教育に特化することが重要です(Q23、24)。
- その他、作業の安全性より生産性優先(Q5、13)、適切な安全装置の設置(Q12)、危険予知訓練などの実施(Q9)、職場での作業手順の見直し(Q14)、3Sの実践(Q15)、提出された改善・ヒヤリの対策実施(Q17)、他職場で発生した災害情報共有(Q18)、事業所安全衛生委員会の活動伝達(Q20)についても、職場の一定数の組合員が課題と感じています。職場でのヒアリングを通して設備面や風土面の問題発掘・課題抽出を行い改善していくことが、より安全な職場の実現に繋がります。

最後に

安全は全てにおいて最優先です。一方で、人・設備・環境・テクノロジーは常に変化し続けます。また、人間には危機意識・危険への感受性を常に高度に保ち続けることが難しいという特性があります。そのため、安全活動に完成形はなく、粘り強く継続的に取り組み続ける必要があります。

単組毎にアンケートデータをお渡ししております。単組・支部・職場、職種など属性別に分析すると、それぞれ異なる結果が見えてきます。職場環境改善のツールとして労使対話でご活用いただき、労使で協力し、安全で安心して働ける職場の実現と、安全最優先のより良き安全文化・風土の醸成に繋がっていただければ幸いです。

化学総連活動報告

【第48回幹部研修会】

日 時	2025年1月23日(木)～24日(金)
場 所	オリエンタルホテル広島 4階「ボールルーム」(広島)
参加人数	196名(web併用)

第48回幹部研修会は1日目に会長講演および特別講演一つ目、2日目に政策局長基調講演および特別講演二つ目を実施しました。

まず会長講演は、化学総連 瓜生会長が「化学総連の課題と取り組み、役員に期待すること」と題して、化学総連のこれまで歩んできた歴史と課題や取り組みについて紹介いただいたうえで、「相談できる仲間をつくること」や「学びを率先し自らも学び知り得たものを還元すること」、「変えるべきものは大胆かつ柔軟に、変えてはならないものにはこだわりをもつという温故知新の精神を大切にすること」の主に3点を化学総連に加盟する単組役員として期待することとしてご説明いただきました。



講演する瓜生会長



会場の様子

また、特別講演の一つ目は、国立研究開発法人 海洋研究開発機構 主任研究員の中嶋亮太氏より「海洋プラスチック汚染 現状と未来への展望」と題して講演いただきました。普段は目にすることができない海底に沈むプラスチックごみの実態について、微生物が付着して海底に沈んでいるレジ袋などの映像を交えてご紹介いただき、プラスチック製品の使い捨てを減らすことが鍵となると説明され、参加者はプラスチックの再利用や処理などにつ

いて改めて考えさせられる内容でした。

2日目には、まず政策局長基調講演では、化学総連 下田政策局長が「2025年春季労使交渉について」と題して、2025年春季労使交渉に向けて、2024年春季労使交渉結果の振り返りも含め、世界や日本の各諸情勢、企業業績について説明し情報の共有化を図りました。2023年から継続する賃上げ機運は今年度も続いており、化学総連としても、過去2年間の賃上げ状況を鑑みたと、自社の業績を踏まえ定期昇給以外の賃上げについても積極的な要求・協議を期待しております。

また、特別講演の二つ目は、大阪大学大学院 経済学研究科 教授 松村真宏氏より「「仕掛け」で人を動かす」と題して講演いただきました。松村氏は、問題解決のために人の行動を自然にいざなう「仕掛け」を研究する学問、「仕掛け学」の創始者です。仕掛けの設計には、「誰も不利益を被らない公平性」と「行動が自然に行いたくなる誘引性」、「仕掛ける側と仕掛けられる側で目的が異なる目的の二重性」の3つの要件が重要とのこと、ごみを捨てると落下音のするゴミ箱など一部の仕掛けをご紹介いただき、参加者は紹介された仕掛けに興味津々な様子でした。



講演する中嶋氏



講演する下田政策局長



講演する松村氏

【2025年度安全研修会】

今年度より労働災害撲滅に向けた取り組みを加速することを目的に環境安全委員会主催の安全研修会を開催し、各単組から製造現場の職長や作業長、主任や副主任などの役付者に集まっていただきました。

最初に、環境安全委員会の河村委員長より、開会挨拶および委員会活動報告が行われました。活動報告の中では、2024年度に実施した第3回安全アンケートの結果について説明があり、安全に関する意識や行動、取り組みの現状と過去からの変化を把握し、今後の効果的な安全活動を考えていく一助としていただきました。

また、基調講演として落合労働安全コンサルタント事務所の落合一幸氏に「安全とヒューマンエラー ～事故災害防止の勘所～」と題してご講演いただきました。二宮尊徳や論語などの古典の教訓も引用しながら、事故災害防止の勘所として、危険の予見や回避する措置の実施、不安全行動や不安全状態を見逃さないこと、変更管理の確実な実施、安全のABC、なぜ失敗したのか探ることの重要性、安全文化の向上は人への思いやりが重要なことなどを教えていただきました。

最後には、参加者に各班に分かれていただき分科会を実施しました。各社の労働災害撲滅に向けた取り組み事例や課題、職場での若手に対する教育方法や工夫など様々なテーマについて闊達な議論を行いました。研修会後のアンケート結果では、他企業の教育方法や悩みが知れたとの意見や、課題を共有することができ有意義であったとの意見が多く寄せられたため、来年度以降も開催を検討したいと考えています。



現地参加者の集合写真



活動報告する河村委員長



講演する落合氏



講演を聴く参加者



分科会の様子 (B班)



分科会の様子 (D班)



分科会の様子 (E班)

日 時	2025年3月3日 (月)
場 所	TKP新大阪駅前カンファレンスセンター(大阪)
参加人数	62名 (web参加者含む)

【第109回調査担当者会議】

2025年春季労使交渉がすでに始まっている単組がある中で、第109回調査担当者会議を化学総連事務所とwebハイブリッドにて開催しました。

最初に、2024秋季労使交渉結果の共有を行い、交渉を実施した7単組より（うち1単組は団交のため欠席）その取り組み結果をご報告いただき取り組み結果に対する質疑応答を行いました。今後の住宅支援制度の見直しや一時金の計算方法の変更、入社時の特別年休の付与や新しい働き方に向けた各種課題に関して取り組みを開始された単組がありました。

休憩をはさみ、続いて2025春季労使交渉の検討状況について情報交換を行い、賃金や一時金、付帯要求を中心に情報交換を行いました。各単組の春季労使交渉のトピックスとしては以下の通りです。

<賃金>

加盟単組の約半数以上が2024年12月末時点で増収増益となっていることもあり昨年に引き続きベースアップの他、賃金改善に取り組む単組が非常に多い。また、減収減益となっている単組も昨今の物価高や世間の賃上げの流れを受け、継続してベースアップを要求する傾向にある。



会議全体の様子

<一時金>

業績連動型一時金制度を導入する企業が増えており、2024年度の増収増益で推移すれば昨年の一時金と比較して上昇基調となる単組が多い。

<その他要求事項等>

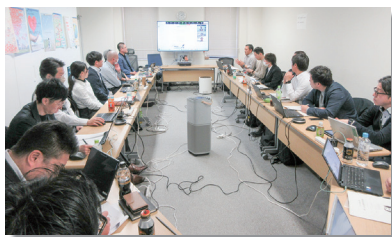
総実労働時間の削減、介護短時間勤務の期間の延長、単身赴任手当の改定や長期出張手当の見直し、カフェテリアプランの拡充、テレワーク勤務規程の改定、国内出張旅費や宿泊費の改定、役職手当の改定など幅広く付帯要求に取り組む単組がある。



開会挨拶する大熊副会長



報告する水野氏
(日信化学労働組合)



Web ハイブリッドにて開催



報告する山田氏
(信越化学労働組合)



報告する伊藤氏
(ダイセル労働組合)



闊達な議論が行われました

日 時	2025年3月18日（火）
場 所	化学総連事務所+Webハイブリッド 開催（東京）
参加人数	20名

【2025年度 第2回書記長・事務局長会議】

加盟各単組で春季労使交渉の取り組みが加速する中で、2025年度第2回書記長・事務局長会議を開催しました。

昨年度のテーマアップアンケート結果にて、他労組と情報交換したいテーマの中で多くの意見が寄せられていた「各労組における春季労使交渉や労使協議のプロセスや課題、工夫」について議題として取り上げ、事前提出資料を作成のうえ意見交換を行いました。

春季労使交渉のプロセスについては各社各様の進め方があり、質疑応答の場では各労組のプロセスに対して詳細な確認が行われました。労使で合宿を行って意見交換する単組もあり、化学業界が大きく変化するなかで労使ともに自分達の会社を良くしたいという熱意が感じられました。

また、課題や工夫を確認するなかで、多くの単組が共通の課題としている点なども見つかりました。他の単組では行っていない工夫を行う単組も見受けられ、詳細を確認しつつ闊達な議論が行われました。特に春季労使交渉の結果を素早く組合員へ周知するため、徹夜で作業される単組もあり、より効率的にわかりやすく周知することやオルグを行う方法なども確認しました。

今後の加盟各単組における春季労使交渉で今回の意見交換が役立てば幸いです。



会議の様子



開会挨拶する松岡会長代理



資料説明する松田書記長
(UBE労働組合)



資料説明する大森書記長
(日本板硝子労働組合)



意見交換の様子①



意見交換の様子②

日 時	2025年3月27日 (木)
場 所	化学総連事務所 + Webハイブリッド開催 (東京)
参加人数	21名

【2025年度エネルギー政策研修会】

昨年に引き続き、カーボンニュートラルに対する世の中の流れや技術・ビジネス動向を学ぶことで、新たな知見獲得や視野拡大を通じた個々の成長や企業価値向上につなげることを目的にエネルギー政策委員会主催の研修会を開催しました。

まずは、化学総連エネルギー政策委員会の加藤委員長より、化学総連のエネルギー政策委員会の取り組みについてご紹介いただき委員会でどのような活動を行っているのか理解を深めていただきました。



講演する佐々木先生

また、基調講演として九州大学 副学長・水素エネルギー国際研究センター長の佐々木一成氏に「カーボンニュートラルに向けた水素の可能性と課題」と題してご講演いただきました。国内再生エネルギーの利用拡大や海外からの再生エネルギー大量輸入、回収CO₂の燃料化に水素は不可欠であり、脱炭素社会の電力、燃料、原料をまかなう化学的なエネルギー媒体であることを説明いただきました。

最後に各グループに分かれて各社のカーボンニュートラルに関して参加者同士で情報交換する分科会を開催しました。普段から各企業においてカーボンニュートラル関連の仕事を専門としている方をはじめ、研究開発、製造、分析など様々な職種を持つ参加者が積極的に様々な意見交換を行っているのが印象的でした。



研修会後の集合写真



分科会の様子 (A班)



分科会の様子 (B班)



分科会の様子 (C班)



分科会の様子 (D班)



委員会説明する加藤委員長
(三井化学労働組合)



研修会の様子



質問する宮崎氏
(レゾナック労働組合)

日 時 2025年3月28日 (金)

場 所 AP新橋 (東京)

参加人数 25名

2024年末 社会福祉カンパ

加盟各組合および各支部において、社会福祉の一環としてカンパ活動による全国各地の社会福祉施設への支援が長年にわたり実施されております。化学総連においても、昭和53年より、全国組織を活かした大きな枠組みでのカンパ活動を展開しています。

今年度も加盟組合の皆様の温かいご支援、ご協力いただきありがとうございました。社会貢献活動基金としてご協力いただきました皆様の善意については社会福祉施設や日本赤十字社を経由して災害で苦しむ方々へ寄付させていただきます。

2024年末社会福祉カンパ実施結果

組 織 名	年末社会福祉カンパ		
	カンパ額	社会貢献活動基金	総 額
レゾナック労組	776,521	145,250	921,771
三井化学労組	324,086	94,492	418,578
UBE労組	209,832	27,915	237,747
ダイセル労組	460,027	77,625	537,652
日本ゼオン労組	774,564	83,000	857,564
J S R 労組	365,598	40,000	405,598
J N C 労組	150,000	3,200	153,200
丸善石油化学労組	47,000	20,000	67,000
D I C 労組	1,303,442	0	1,303,442
積水化学労組	0	100,000	100,000
カネカ労組	370,000	128,072	498,072
信越化学労組	2,361,385	150,000	2,511,385
住友ベークライト労組	166,963	151,722	318,685
三洋化成工業労組	460,000	200,000	660,000
日信化学労組	150,000	83,970	233,970
A G C 労組	564,001	91,294	655,295
日本板硝子労組	368,174	49,262	417,436
デンカ労組	0	235,479	235,479
ENEOSマテリアル労組	314,553	35,000	349,553
化学総連事務局	0	4,000	4,000
合 計	9,166,146	1,720,281	10,886,427

※社会貢献活動基金は関連労組のカンパ金額含む

日本赤十字社への義援金贈呈

化学総連はこれまで自然災害等の被災者支援として、日本赤十字社を通して当該地域へ義援金の寄付を行っております。2024年は以下4件について、日本赤十字社の本社を直接訪問し義援金贈呈を行いました。

2024年1月1日に発生しました令和6年能登半島地震について、その後も大雨による災害が続き、被災地は大きな被害に遭われました。日本赤十字社では、救援物資の配布はもちろん、救護班や災害医療コーディネーターチーム、こころのケア班など職員派遣も積極的に行われていると説明を受けました。

被災地の方々の生活が一日でも早く元に戻られる一助となるよう引き続き本活動は行っていきたいと考えております。

- 令和6年能登半島地震災害義援金
- 令和6年7月25日から的大雨災害義援金
- 令和6年沖縄県北部豪雨災害義援金
- 令和6年9月能登半島大雨災害義援金

日 時 2025年2月6日(木)

場 所 日本赤十字社 本社(新橋)

参加者 日本赤十字社 パートナーシップ推進部
相澤部長、森本係長

化学総連 瓜生会長、森事務局長、安福事務局次長



義援金贈呈式の様子
(写真左より森本係長、相澤部長、瓜生会長、森事務局長)

大阪マラソン2025(チャリティランナー)

化学総連は大阪マラソンのチャリティ活動への理解を深め、支援の輪を広げていくことを目的に公益財団法人オイスカ枠よりチャリティランナーとして例年3枠を輩出しております。



出走前の集合写真
(写真左より松井さん、新井さん、間嶋さん)

今年度は加盟単組で抽選の結果、以下3名の方にご参加いただきました。

- JSR労働組合 間嶋 寛 さん
- AGC労働組合 松井 皓 さん
- デンカ労働組合 新井 大地さん

約3万4千人がマラソンへ参加されており、小雪の舞う中でしたが会場は賑わっていました。昨年度に引き続き、見事に全員が怪我をすることなく完走されました。来年度も参加を予定しておりますのでみなさんの応募をお待ちしております。

日 時 2025年2月24日(月)

場 所 大阪城公園スタート(大阪)

応 援 AGC労働組合 相模支部 小山支部長
デンカ労働組合 本部 森田書記長 五泉支部 板垣執行委員長
化学総連 事務局 安福事務局次長

